

2019 年度中間決算報告書



株式会社エフエム東京

事業の経過及び成果

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、アジア向けを中心とした輸出の低迷や一部インバウンド需要に伸び悩みがみられたものの、所得の回復傾向や高水準の企業収益を受け、個人消費や設備投資、公共投資などが堅調に推移しました。こうした内需にけん引される形で、緩やかな景気回復が持続する中、ラジオ広告市場は全体的には前期同様の水準を維持しましたが、当社グループにおいては、主力である放送収入が期初よりスポットを中心に前期を上回る水準で推移しました。グループ全体の連結売上高は89億2千5百万円となり、営業利益は4億2千3百万円、経常利益は4億3千7百万円となりました。特別利益に前期末 i-dio 事業に関連して計上した関係会社事業損失引当金の戻入額等11億9千万円余を計上し、特別損失に i-dio 事業関連会社への貸倒引当金等5億7千4百万円を計上しました。この結果、親会社株主に帰属する中間純利益は8億4千6百万円となりました。

当社単体の業績については、売上高が64億3千6百万円（前年同期比4.0%増）、営業利益が3億6千4百万円（前年同期比36.8%増）、経常利益は4億6千4百万円（前年同期比7.4%減）、中間純利益は3億2千万円（前年同期比17.7%減）となりました。

連結事業セグメント別の営業状況は以下の通りです。

<放送事業活動>

当社は i-dio (V-Low マルチメディア放送) 事業について、9月18日開催の取締役会で当社としての撤退を決議し、10月8日にその方針を公表しました。総務省からは翌9日付で i-dio 事業の「利用者対応については、関係者と密接に連携し、自治体を含めたサービスの利用者が不利益を被ることがないように、丁寧な周知、説明を行うこと」を要請する行政指導を文書で受領しており、当社として適切かつ真摯に対応を進めております。

主力の FM 放送事業については、当期4月改編でメインターゲット M1F1 層、若者リスナーをさらに獲得するべく、平日の朝帯と夜帯を改編しました。

このうち、平日朝帯ではワイド番組を11年ぶりに改編し、パーソナリティに声優事務所を運営しながら自らも人気声優として第一線で活躍する鈴村健一氏を起用した『ONE MORNING』（月～金曜 6時～9時）をスタートしました。コンセプトは、生活者のライフスタイルが多様になる中、それぞれが迎える朝に新しい一つの価値観を提案しシェアしていくことです。また、平日夜帯には、働く独身女性をターゲットに、「褒めること」をコンセプトにした肯定型コミュニケーションプログラム『ホメラニアン』（月～木曜 20時～21時半）を新たに編成しました。

聴取率においては新規リスナー獲得の兆しが出始めておりますが、当中間期全3回の調査で全日平均メインターゲット層ではトップを獲得できておらず課題を残しています。なお、メインターゲット層のあり方については、年齢層区分を超えた高度情報化時代における生活者の価値観多様化を踏まえながら、新たなコア・ターゲット設定を目指し、広く広告業

界やエンタテインメント業界の声を聞きながら再構築の検討を行っております。また、番組編成全体については、長年の間に様々な方向を向いた番組が脈絡なく並んでしまう状態が生じており、その結果ステーションイメージの曖昧化が進んでいることを認識しております。今後、土曜日曜の全国ネットワークゾーンから編成の改革に着手してまいります。

前期より世界的作家・村上春樹氏がディスクジョッキーをつとめる特別番組『村上 RADIO』を計6回放送してまいりましたが、当期は同氏の作家活動40周年を記念し、6月26日(水)にTOKYO FMホールにて、公開収録イベント『HARUKI MURAKAMI 40th Anniversary 村上 JAM～村上 RADIO SPECIAL NIGHT～』を開催しました。当日は音楽監督に村上春樹氏と親交の深いジャズピアニスト・大西順子氏、ゲストに北村英治氏、渡辺貞夫クインテットなど豪華メンバーを迎えた一夜限りのスペシャルライブを実施。さらに、村上氏とかねてより親交のあるスガシカオ氏の弾き語り、俳優・高橋一生氏や村上春樹氏本人による村上作品の朗読、各ゲストとのトークパートなど、ほとんど公の場に登場しない村上春樹氏にとっては過去に類を見ないイベントとなりました。限定150名の観覧募集に対し、リスナーから約1万2,000通の応募があるなど非常に大きな反響を呼び、一般紙、テレビ、ネットメディアなどで大きな話題となりました。この公開収録の様子は、8月25日(日)、9月1日(日)の2週にわたり、当社をはじめとするJFN全国38局ネットで放送しました。

今後の大きな経営計画として、インターネットオンデマンド音声コンテンツの集積体＝プラットフォームを構築して、タイム収入、スポット収入と並ぶ新たな収益の軸を構築していく所存です。音声コンテンツは、FM番組と関連して同時に楽しんでいただくもの、FM番組とは関連しないネット独自企画の2種類で構成し、すでに助走期として関連会社を中心にスタートさせたサイトは月間35万人のアクティブユニークユーザー(MAU)を集めるまでに至り、大手広告代理店等からはマネタイズの提案を数多くいただくようになりました。今後は、当社が主体となって取り組み、来年度中にはMAU100万人超えを目指し、その後はネットストーリーミングなど音楽系の他有力サイトとの連携を強化しながらMAU300～500万人を目指してまいります。

<企画・制作事業活動>

主催興行として、日本最大級の音楽フェスティバル『ROCK IN JAPAN FESTIVAL 2019』を8月3・4日(土・日)、10・11日(土・日)、12日(祝)の5日間、国営ひたち海浜公園(茨城県ひたちなか市)にて開催しました。本年は同フェスティバルの開催20回目となる記念すべき年として過去最大規模の開催となり、SEKAI NO OWARI やスピッツ、Perfumeなどの当社番組出演者も多数参加しました。本イベントは約34万人を動員、世界のロック・フェスティバルと匹敵する集客力を示しました。

今年で5回目となる10代アーティスト限定の音楽フェスティバル『マイナビ 未確認フェスティバル2019』を、8月25日(日)にSTUDIO COAST(新木場)で開催しました。本イベントはJFN全国38局で放送中の10代向け番組『SCHOOL OF LOCK!』のプロデュースによ

るもので、会場には、のべ4,200人のリスナーが来場し大盛況となりました。アーティストの応募総数3,101組の中から3次におよぶ審査を勝ち上がった、8組の10代アーティストがファイナルステージに挑戦、北海道出身の4人組バンド SULLIVAN' s FUN CLUB (サリバンズ ファン クラブ) がグランプリを受賞しました。

7月には、ブロードウェイの歌姫ケリー・オハラと渡辺謙の共演によるミュージカル『王様と私』を招聘し、大ヒットを記録いたしました。

<インフォメーションプロバイダー事業活動>

連結子会社ジグノシステムジャパン(株)では、各種アプリやLINE スタンプ等のコンテンツサービスの売上が市場環境の悪化により伸び悩んだ一方、新たに取り組んだキャラクターライセンスビジネスや物販ビジネスが伸長しました。しかし、前期の i-dio 事業関連の収入に代わる売上を獲得することはできませんでした。

<その他の事業活動>

TOKYO FM 少年合唱団は、来年2020年の東京オリンピック・パラリンピックイヤーに向けた国際的なオペラプロジェクト「オペラ夏の祭典 2019-20 Japan⇔Tokyo⇔World」に招かれ、プッチーニ「トゥーランドット」全7公演に出演する等、幅広く活動しました。

中間損益計算書（連結）

2019年4月1日～2019年9月30日

（単位：千円）

勘定科目	2020年3月期中間期 (2019.4.1～2019.9.30)
売上高	8,925,189
売上原価	5,806,919
売上総利益	3,118,269
販売費及び一般管理費	2,694,607
営業利益	423,662
(売上高営業利益率)	4.7%
営業外収益	90,919
営業外費用	76,753
経常利益	437,828
(売上高経常利益率)	4.9%
特別利益	1,190,900
特別損失	574,312
税金等調整前中間純利益	1,054,416
法人税、住民税及び事業税	154,308
法人税等調整額	47,371
中間純利益	852,736
非支配株主に帰属する 中間純利益	6,629
親会社株主に帰属する 中間純利益	846,107

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前年同期比較中間損益計算書（当社単体）

2019年4月1日～2019年9月30日

（単位：千円）

勘定科目	2020年3月期中間期 (2019. 4. 1～2019. 9. 30)	2019年3月期中間期 (2018. 4. 1～2018. 9. 30)	前年同期比
売上高	6,436,720	6,190,141	104.0%
売上原価	4,110,737	3,994,147	102.9%
売上総利益	2,325,983	2,195,994	105.9%
販売費及び一般管理費	1,961,129	1,929,302	101.6%
営業利益	364,854	266,692	136.8%
（売上高営業利益率）	5.7%	4.3%	
営業外収益	124,610	259,355	48.0%
営業外費用	25,080	24,730	101.4%
経常利益	464,384	501,317	92.6%
（売上高経常利益率）	7.2%	8.1%	
特別利益	1,185,242	—	—
特別損失	1,187,874	879	135115.3%
税引前中間純利益	461,751	500,438	92.3%
法人税、住民税及び事業税	129,077	97,105	132.9%
法人税等調整額	11,713	13,237	88.5%
中間純利益	320,960	390,094	82.3%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前年同期比較売上高内訳書(当社単体)

2019年4月1日～2019年9月30日

(単位:千円)

	2020年3月期中間期 (2019.4.1～2019.9.30)	2019年3月期中間期 (2018.4.1～2018.9.30)	前年同期比
売上高	6,436,720	6,190,141	104.0%
放送事業収入	5,817,355	5,686,706	102.3%
放送収入	3,853,469	3,652,464	105.5%
タイム放送料	2,679,728	2,659,617	100.8%
スポット放送料	1,173,741	992,847	118.2%
制作収入	1,346,303	1,321,225	101.9%
その他	617,582	713,016	86.6%
企画事業収入	450,261	334,202	134.7%
賃貸事業収入	119,362	119,883	99.6%
その他事業収入	49,739	49,349	100.8%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

55 期(上期)広告会社取り扱い順位

<総合順位>

55 期	54 期	広告会社
1	1	博報堂DYメディアパートナーズ
2	2	電通
3	3	ADKマーケティング・ソリューションズ
4	4	全農ビジネスサポート
5	5	大日本印刷
6	-	オレンジ・アンド・パートナーズ
7	6	東急エージェンシー
8	9	ユータムエンタープライズ
9	13	放送文化事業
10	12	オリコム

<タイム>

55 期	54 期	広告会社
1	2	博報堂DYメディアパートナーズ
2	1	電通
3	3	ADKマーケティング・ソリューションズ
4	4	全農ビジネスサポート
5	5	大日本印刷
6	-	オレンジ・アンド・パートナーズ
7	8	東急エージェンシー
8	11	読売エージェンシー
9	13	テレビ朝日サービス
10	50	クオラス

<スポット>

55 期	54 期	広告会社
1	1	博報堂DYメディアパートナーズ
2	2	電通
3	3	ユータムエンタープライズ
4	6	放送文化事業
5	4	東急エージェンシー
6	8	オリコム
7	5	エスプロックス
8	7	ADKマーケティング・ソリューションズ
9	-	TBSグロウディア
10	-	全農ビジネスサポート

2020年3月期 中間決算短信

2019年11月28日

会社名 株式会社 エフエム東京
 URL <http://www.tfm.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 総務局長
 配当支払開始予定日 -

(氏名) 黒坂 修
 (氏名) 一瀬 勝

TEL (03)3221-0080

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期中間期の連結業績 (2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 連結経営成績

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 中間純利益
2020年3月期中間期	8,925 百万円	423 百万円	437 百万円	846 百万円

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
2020年3月期中間期	944 円 38 銭	- 円 - 銭

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期中間期	34,815	22,312	62.9
2019年3月期	35,939	21,725	59.3

(参考) 自己資本 2020年3月期中間期 21,903百万円 2019年3月期 21,329百万円

2. 配当の状況

	年間配当金		
	中間期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	60 00	- -	60 00
2020年3月期	- -	- -	- -
2020年3月期(予想)	- -	未定	未定

※注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 無
- ② ①以外の会計方針の変更 無
- ③ 会計上の見積りの変更 無
- ④ 修正再表示 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む) 2020年3月期中間期 900,000株 2019年3月期 900,000株
- ② 期末自己株式数 2020年3月期中間期 4,057株 2019年3月期 4,057株
- ③ 期中平均株式数 (中間期) 2020年3月期中間期 895,943株

(参考) 個別業績の概要

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期中間期の個別業績(2019年4月1日~2019年9月30日)

(%表示は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期中間期	6,436	4.0	364	36.8	464	△7.4	320	△17.7
2019年3月期中間期	6,190	△4.6	266	△34.6	501	△28.9	390	△28.4

	1株当たり中間純利益	
	円	銭
2020年3月期中間期	356	62
2019年3月期中間期	433	44

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
2020年3月期中間期	32,986		21,589		65.5	
2019年3月期	34,048		21,521		63.2	